

2023年9月6日

上関町長 西 哲夫 様

上関原発を建てさせない山口県民連絡会  
共同代表 清水 敏保  
共同代表 内山 新吾  
事務局長 原 康司

## 「中間貯蔵施設の調査容認」の決定を白紙撤回することを求めます

日頃の精勤に敬意を表します。

中間貯蔵施設を巡る調査について、8月2日に中国電力の申し出、8月18日の調査容認の決定は、隣接する2市4町は言うに及ばず、山口県全域、瀬戸内海全域、西日本全域に影響を及ぼすものです。上関町だけで決めていい問題ではありません。その意味では、8月2日に、町長室で地元住民だけでなく町外の参加者の意見にも耳を傾けていただいたことはありがたく思います。私たちも、意見を述べさせていただきます。

第一に、安全性の問題です。西町長は、中間貯蔵施設の乾式キャスクは、「手で触ってもなんともなかった」と何度も強調されています。しかし、キャスクの中身は人体に有害な放射能です。東海第2原発や各地の原発サイトの視察用キャスクをもって安全と言い切るには無理があります。上関町に運び込まれるとされる使用済み核燃料は、5000トン規模と仮定すると広島型原爆17万発分の「死の灰」です。

原発関連施設への、核燃料（使用済みも含め）の運搬に伴う船舶事故、南海トラフなどの巨大地震・津波などの自然災害、加えて墜落などの航空機事故、有事の際には標的となる可能性がある等、これらの問題に対して、安全であるという実証はどこにもありません。上関町の住民にとどまらない西日本の住民が、放射能事故の危険性に怯えた生活を送らなくてはなりません。国や電力会社は「原発は安全」だと言い続けてきましたが、現実には2011年、3.11の過酷事故を招きました。未だに原発事故非常事態宣言を解除できないでいる東京電力福島第1原発での失敗を、絶対に繰り返してはなりません。

第二に、中間貯蔵施設は、中間とは名ばかりで、原子力・核施設として永久化されることが自明です。国の核燃料サイクル政策は、完全に破綻しており、再処理工場の稼働の目

処はたっていません。その中で、使用済み核燃料が核資源として再利用される可能性よりも、「核のゴミ（核廃棄物）」として、そのまま貯蔵され続ける可能性が高いということです。しかも、運びこまれる使用済み核燃料は、関西電力管内のもので、関西電力が福井県との約束を守れず、使用済み核燃料の行き場が無く、にっちもさっちも行かなくなつて困り果てた状況を救済するかたちで上関町に計画されたものです。関西電力はなぜ自社管内で貯蔵しないのでしょうか。今、計画を止めないと、上関町に計画されている施設が、東日本の青森県むつ市と並んで、西日本の核のゴミ貯蔵施設として永久化されることになります。私たちはこの計画を許すことはできず、次世代にも絶対に残せません。

第三に、長期的なまちづくりのビジョンが壊されるという問題があります。コロナ禍を契機に、都会から地方への人口移動が加速しています。全国の市町村が、地域の個性を磨きあげ、知恵を絞り、子育て世代を対象に移住・定住策を練っています。柏原・前町長の唱えた「原発に頼らない町づくり」は、他の町が羨むほどの自然の好条件をいかして花開こうとしていました。

西町長は「財政難」から、中間貯蔵施設の調査に伴う交付金の必要性を主張されます。しかし、先祖代々で守り抜き大切にしてきた海や土地を売ったカネ、都会には危険でつくることのできないから無理やりに億単位もの積みましで交付されるカネ、そんなカネでつくれる町に若者が来るのでしょうか。今こそ西町長は、脱原発の立場に立ち、原発ゼロ法案で言われている原発立地地域への被害補償を政府に求めるべきです。

上関町の人口減少の原因のひとつは、41年間もの「上関原発計画」があるからです。子育て世代の移住が急増している明石市の泉房穂・元市長は、「明石市は子ども政策に潤沢にお金を使ったから人口が増えたと言われているが、それは誤解だ。子育てへの熱意が先にあって、その成果が上がってきたのだ」と語っています。次世代へ何を残すのか、噛みしめるべき言葉ではないでしょうか。

以上をふまえて、私たちは、上関町における中国電力・関西電力の中間貯蔵施設の調査に反対し、貴職に下記の申し入れをします。

## 記

### 申し入れ事項

8月18日の「中間貯蔵施設の調査容認」の決定を、白紙撤回すること。

※参考資料として、東京新聞8月30日付掲載の齋藤美奈子氏のコラムを添付します。

以上

【連絡先】〒747-0035 防府市栄町 1-2-1 日本基督教団防府教会気付  
上関原発を建てさせない山口県民連絡会  
電話 080-6331-0960 (事務局次長 安藤)

※参考資料

## 本音の コラム



上関町 斎藤美奈子

上関町ってどこ？ という話からすると…。山口県に下関市があるのは知ってますよね。下関があるならば、上関だってあるのよ、もちろん。周防灘に面した上関町はなかなかステキな町なのだ。近世には海上交通の要衝で、北前船や朝鮮通信使の寄港地だった。丘の上には、戦国時代、村上水軍の海賊城だった上関城跡が公園として整備され、史跡も多い。ここはまた、一九七四年のNHK朝ドラ「鳩子の海」の舞台になった町でもある。名物「鳩子てんぷら」や銘菓「鳩子の海」は当時のなごり。町の謳い文句は「浪漫あふれる海峡の町」「花咲く

海の町」である。

その上関町が使用済み核燃料の中間貯蔵施設を受け入れる方向で動きだした。原発計画が停滞する中での地域振興策。二十三日の本紙特報面によると、調査容認を表明した町長の弁は「過疎化などで、このままでは町が存続できない」。

それは違うと思いますよ町長。一度施設を受け入れたら負のイメージが定着、町が誇る海も歴史もおじゃんである。

## 鳩子の町のこと

上関町は東京からのアクセスも悪くない。岩国空港から海沿いに約五十キロ。レンタカーなら七十分。朝の羽田便に乗れば午前中に到着し、町歩きも食事も楽しめる。観光のポテンシャルは十分あるのだ。「鳩子の海」の町を「核のゴミあふれる海峡の町」にしないでほしい。(文芸評論家)

2023.8.30